

# 都賀町の文化財巡り

## 訪ねてみませんか歴史の道

日光輪王寺 勝道上人像



### 勝道上人

世界的にも有名な観光地、日光を開山したことでも知られる勝道上人は、幼少時代を都賀町で過ごした人物である。

父は、高藤介という下野国府の高官で、垂仁天皇の皇子池邊別命の子孫にあたる人であり、母は、明寿といふ芳賀郡高岡（現在の真岡市）の吉田清磨といふ人の娘である。

家は、室の八島（現在の栃木市惣社町）にあったが、いつの代にか館を城山（現在の都賀町大字木）に移し、姓を若田と名乗って藤介の時代まで代々国府の役人をしてきた。

さて、明寿を迎え幸せに暮らしていた藤介だが、何年たっても、2人の間には子どもがなかった。その頃、城山の西方に出流の洞窟があり、その中に鐘乳石でできた観世音菩薩が祀られていた。この菩薩は、行基（朝廷から高僧に賜った名）菩薩の開基といわれ、靈驗あらたかと評判であった。

風の噂にこの話を聞いた2人は、良い子を授けようと早速出流に出かけ、洞窟にこもって祈ったのである。そして7日目の満願の夜明け頃、うつらうつらと夢の中へ引き込まれた明寿の前に白い蛇が現れ、金の鉢を与えたそうである。鉢の直径は5寸くらいで形は八葉の蓮華に似ており、中には藤の蔓で十文字に絡んである白玉が納められていた。

明寿は、金の鉢をありがたく戴くと同時に眼がさめた。そして、この夢に喜び家に帰ったのである。すると、幾日もたないうちに明寿は懐妊し、玉のような男の子を生んだ。夫妻は大変喜び、夢のお告げにちなんで「藤糸」と名付けたのである。

慈愛深き両親のもと城山で過ごした藤糸だが、その誕生の奇談もあってか幼少の頃から神仏を崇め、さらに7歳のとき夢の中に現れた明星天子より三帰依四弘の誓願という経文を教えられ、その後20歳で出家するまでの間、両親には内請で僧侶になるべく勉強をしていたそうである。

後に修行を重ねた勝道（762年に改名）は、延暦元年（782年）ついに48歳で男体山をきわめて日光を開山し、61歳（延暦14年）で当時の天皇より上野講師という国々に1人しか置かない位と「上人」の称号を賜り、勝道上人となったのである。

また、勝道上人は、幼少より19歳まで過ごした城山の地に華嚴精舎（華嚴寺）を建立しており、華嚴寺は、その後明治の初めまで隆盛をきわめたのである。

### 華嚴寺

延暦八年（789年）勝道上人によってこの地に建立された出井山華嚴寺は、ここより西側の観音山（元・出井山）にかけて金堂、僧房、観音堂、塔が建ち並び、往時は非常に壮観だったと伝えられる。鎌倉時代には八幡宮が勧請され、江戸時代には下野観音霊場二十二番札所、都賀郡観音霊場三十番札所となっていた。その後、明治の廃仏毀釈の法難にあい、廃寺となり、明治五年に焼失した。

現在は、観音山の中腹に石垣で築かれた広場があり、観音堂の礎石十九個と井戸跡、自然石の碑が残るだけだが、華嚴寺の一字である観音堂を木の北より再移築してこの山内左奥にその雄姿を甦らせている。

出井山華嚴寺全景嘉永年間還元繪圖  
昭和四年丁酉如月吉辰  
晴峯

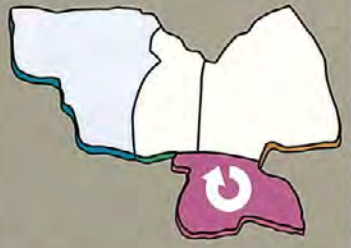


表紙写真

- 町指定無形文化財 木関白流獅子舞
- 華嚴寺還元繪圖

# 文化財巡り 家中地区南部ヨース

合戦場・平川・升塚・下新田



関宿道標⑦



平川八角宝塔③

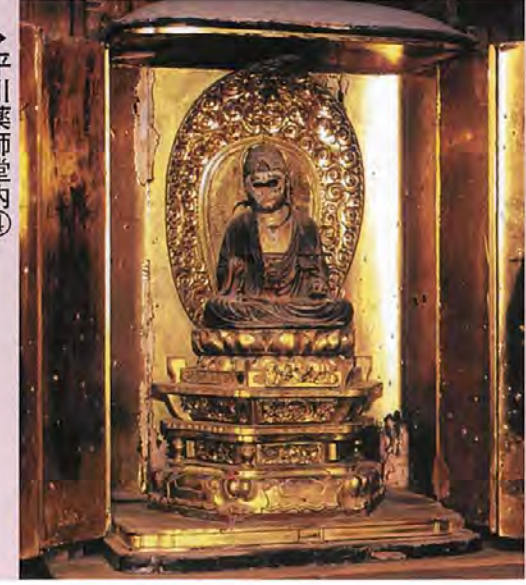


▲升塚獅子舞⑪  
町指定無形文化財 日光東照宮の造営の際、地固めに踊ったと伝えられ、升塚地区内の愛宕神社秋の例大祭に伝統の舞が奉納されます。毎年5月3日、11月3日



▲下新田延命地蔵尊⑫

▼平川羽黒神社①



▲平川薬師堂内④



▲升塚⑬



▲磐根神社⑨

①平川羽黒神社  
修験道の本拠であった山形県の羽黒山神社を勧請したものの。その時代は不詳であるが、鎌倉時代には小さな祠があったといわれている。主祭神は大國主命。

②平川道祖神  
小野口勝美宅前に祀られている道祖神。その地は修験者が定めたといわれている。社殿は小野口家の身内の寄進になり、耳たれや足の病に御利益がある。

③平川八角宝塔  
伏木弘氏宅に八幡様と称する八角宝塔が祀られている。鎌倉時代の板碑もあり、新築に際し現在地に移された。

④平川薬師堂  
薬師像は鎌倉時代のものでいわれ、眼病に靈験がある。堂の裏の沼に面して蔵島神社がある。主祭神は市杵島姫命。

⑤平川城跡  
室町時代末期・皆川氏秀によって築かれた皆川氏の出城。大永三年（一五二三）の川原田合戦に城主皆川成明は戦死、落城した。

⑥北堀の内縄文遺跡  
縄文中期の遺跡、昭和四四年早川先生によって発掘された。

⑦関宿道標  
明和三年（一七六六）合戦場村は久世隠岐守の関宿領となり、升塚村との境に道標が立てられた。現在は合戦場公民館の敷地に保存されている。敷地内に不動院と墓地があり、例幣使道の宿場として栄えた中心地で、近くは本陣屋敷や、日立製作所創立者の小平浪平翁の生家がある。

⑧新地  
明治三十九年に例幣使道より移され、昭和三二年まで法的に認められていた遊廓のあった所。毎年盆踊りが広場で盛大に行われていた。

⑨磐根神社  
創建は後陽成天皇の慶長元年（一五九六）。主祭神は磐裂、根裂の神、配神は経津主命、天照皇太神である。鳥居は宝暦一〇年（一七六〇）常夜塔は文政八年（一八二五）拝殿屋根の鍾馗などの鬼瓦や拝殿羽目彫の彫刻は、文化財的価値がある。境内社の白鳥神社は合戦場七五一番地にあつたものを移転したもの

⑩処刑場  
幕末まで罪人を処刑したところ。現在は立派な供養塔があり、栃木刑務所で管理している。

⑪升塚愛宕神社  
応長十五年（一三一一）京都愛宕山の愛宕神社を勧請したといわれる火防せの神。祭神は軻遇突命・大雷神。毎年五月と十一月に町指定無形文化財の文挟小流獅子舞が奉納されている。

⑫下新田延命地蔵尊  
芳賀町下延生の城興寺の地蔵と兄弟地蔵といわれ、享保十七年（一七三二）頃祀られた。祭日は八月末で近郷近在の善男善女の参拝で賑わう。後生を願う後生車がある。

⑬升塚  
大永三年（一五二三）の川原田合戦で戦死した人々を、住民が敵味方の区別なく埋葬供養した塚。もと晋門院という寺があつたが、現在は晋門地蔵院となつている。宝篋印塔・六地蔵があり、町指定文化財。

⑭升塚経塚  
釈迦入滅後は正法・像法・末法の時代経過があるとされ、末法になると釈迦の教えはすべて忘れられてしまう。そこで經典を経筒に納め、弥勒菩薩が現れるまで保存しようとして、地中に埋納した塚。升塚の東北の墓地にある。

⑮升塚六基地蔵尊  
一枚石に六体の地蔵尊が刻されているので六基地蔵といふ。もと合戦場のお寺にあつたものを大川の堰石として利用されていたが、伏木秀夫氏の祖母が目を患った時、お告げにより自宅に祀つたもの。

# 文化財巡り 家中地区北部コース

新名地・宿・中新田・橋本・上新田  
本郷・中妻中の内・中荒井・鷺宮・桜本



▲本郷のムクロジ③



▼橋本磐裂根裂神社④

▲上新田猿田彦神社①



▲光明寺⑬



▲金照院⑩



⑨中荒井夜泣地蔵

⑧家中の河岸(中洲島)

⑦中荒井櫛形稲荷

⑥中荒井の渡し跡

⑤中荒井八坂神社

④橋本磐裂根裂神社

③本郷住吉神社・ムクロジ

②桑原用水の水神祠・誌碑

①上新田猿田彦神社・良仙院



▲家中小のナンキンハゼ⑬



▲新名地馬頭観音堂⑭



▲中新田八幡宮⑮

▲桜本薬師堂⑫



▲鷺宮太々神楽⑪  
町指定無形文化財 鎌倉時代ごろ神楽面を作る社家とよばれる神官たちがはじめたものという後年神官から氏子に演舞法が伝授され鷺宮神社例大祭の時に奉納されます。毎年11月23日

① 上新田猿田彦神社・良仙院  
神社は家中五二〇番地にある。主祭神は猿田彦命で春秋の祭りに奉納される文挟流獅子舞は町指定文化財。境内は明治初年の廃仏棄釈で廃寺となった良仙院という寺があった所で、僧の墓標・名主刑部家の墓標がある。宝篋印塔には吉宗⑧時代の延享元年(一七四四)と刻まれている。

② 桑原用水の水神祠・誌碑  
桑原用水は家定⑭時代の安政二年(一八五五)壬生藩主が水田開拓を計画し、思川の水を引くため藩士桑原雄介を派遣し、家中村に用水堀開きを命じ、家茂⑮の文久二年(一八六二)に完成した。それを記念して旧用水取口の所に建てたもの。

③ 本郷住吉神社・ムクロジ  
家中三七〇番地、主祭神は水神である上・中・底筒之男命。境内に町指定天然記念物のムクロジと、家慶⑯時代の天保九年(一八三八)の石の灯籠がある。

④ 橋本磐裂根裂神社  
家中一四五番地、主祭神は磐裂命根裂命。明治の神仏分離までは星の宮神社・地名も星の宮である。境内社のうち子々神社は中妻公民館敷地から移されたもの。

⑤ 中荒井八坂神社  
家中三三三番地、主祭神は素佐之男命。弘治二年(一五五六)小山高朝が細井光明に家中城を築かせ、同時に小山武士団も移住させた。その時小山の須賀神社を勧請したもの。

⑥ 中荒井の渡し跡  
県道国谷線にある雷電橋の下は、昔家中と稲葉を結んだ渡し場であった。江戸時代は渡河、明治に入り浅瀬に板橋を地元でかけた。その後渡し船を作り地元の人々が船頭を務め「おほしめし」で渡したので「なさけ」の渡しと呼ばれた。渡し船は終戦まで続いたが、昭和四十三年には雷電橋が完成した。

⑦ 中荒井櫛形稲荷  
家中四三三番地、思川の左岸雷電橋の上流一キロの所に位置し、地形が櫛の背のように丸いところから櫛形稲荷といわれた。嘉永二年(一八四九)再建。

⑧ 家中の河岸(中洲島)  
思川さいかち洲より、二つに流れが分かれ、東南の流れに、家中河岸があった。上流より流ってきた材木・竹等を「いかだ」に組み江戸方面へ送り出した。又中洲島があり、大正時代まで馬草刈り場であった(スポーツ公園の南東にある)。

⑨ 中荒井夜泣地蔵  
家中四三三番地、大塚昇氏の屋敷内に祀られている地藏尊。天正年間(一五七三〜一五九一)に土着したとき建立したといわれる。乳児が夜泣きして困ったとき地藏様にお参りすると夜泣きが治ると伝承されている。

⑩ 鷺宮金照院  
寛文十年(一六七〇) 静信和尚の再建といわれる。真言宗豊山派、本尊は大日如来

⑪ 鷺宮神社・太々神楽  
大同三年(八〇八)創建、主祭神は天日彥命。もと思川漆いにあったが洪水のため承平元年(九三一)現在地に遷宮。おとり様として親しまれている。太々神楽は町指定文化財。

⑫ 桜本薬師堂  
堂は桜本公民館敷地内にあり、木彫りの薬師如来像が安置されている。膝前裏に墨書銘があり天正三年(一五七五)とある。織田信長の躍進期の作である。境内の虫供養塔は近在にみられない貴重なものである。

⑬ 光明寺・家中小のナンキンハゼ  
真言宗豊山派、本尊は不動明王。延喜三年(九〇三)観賢法師による開基。最初は光円寺と称したが、弘治二年(一五五六)細井光明が家中城を築城し、落城後、天正年間(一五七三〜一五九一)に光明の菩提を尊うため現在地に移転し、光明寺と改称したと伝えられている。光明寺西隣の家中小学校には町指定天然記念物のナンキンハゼがある。

⑭ 新名地馬頭観音堂・愛宕神社  
堂内に保存されている額に家宣⑯時代の宝永七年(一七二〇)再具・別当蔵坊と刻された巡拝の記があるので、時代の確認は出来る。昭和三〇年代まで近郷農家の厚い信仰をうけていた。観音堂の敷地内に愛宕神社があるが、その昔要害館の鬼門よけとして祀られた火防せの神である。

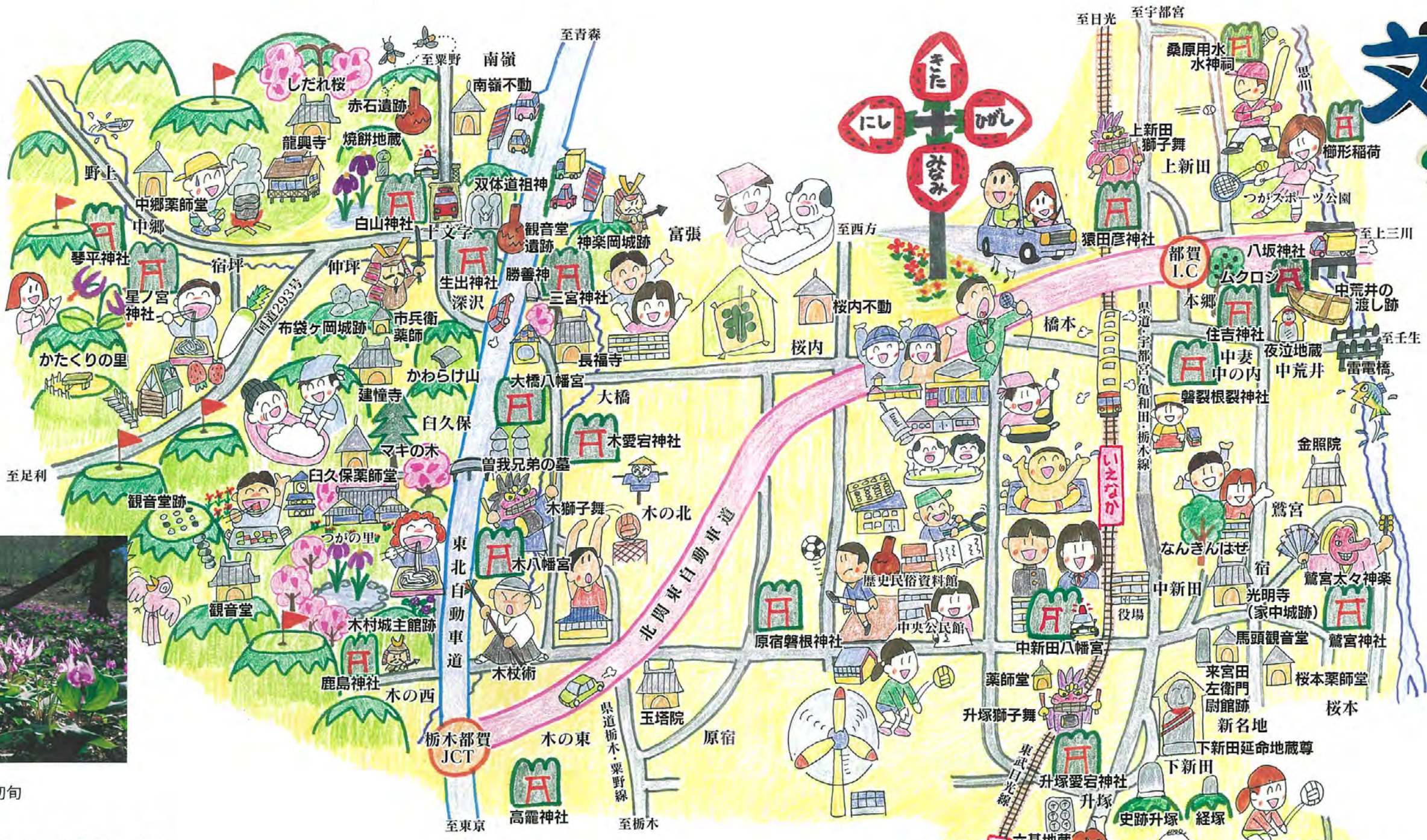
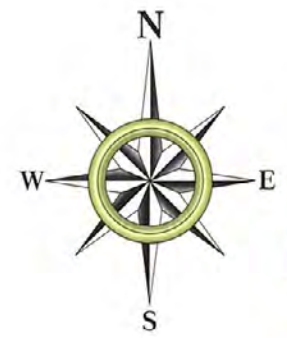
⑮ 新名地十二社と板碑  
家中一五一八番地・川俣善男氏宅の地続きに、祈雨の神を祀る十二社がある。境内から鎌倉時代のものと思われる板碑が出土し神社に保存されている。

⑯ 中新田来宮田左衛門尉館跡  
家中二三一七番地・伏木明氏所有の水田の一角にある碑。弘治二年(一五五六)家中城が築城されると城の裏鬼門に当たる要害の地に来宮田左衛門尉が城館を築き北条に従い勢力のあった皆川に備えた。西方には諏訪神社を祀った。その地は諏訪・諏訪越・諏訪北の小字名として残っている。

⑰ 中新田西光院と薬師堂・不動堂  
西光院跡は東武線で分断されたが、北側には寮があったといわれている。薬師堂は家中六一九二番地にある。薬師様の台座に吉宗⑧時代の元文四年(一七三九) 泉川村景光院・隠居の銘記があり、その末寺となっていた。また不動堂も良く管理されており、二八ある墓碑や仏石のうち家綱④時代の寛文十三年(一六七三)のものが一番古い。

⑱ 中新田八幡宮  
八幡宮は江戸時代末に勧請し中新田の鎮守としたもの。境内の男体山碑はもと長好位氏宅の道沿いにあったものを昭和七年頃移転し、諏訪神社も移転したものである。

# 文化財マップ



▲カタクリの里  
花の見ごろは4月初旬



▲思川雷電橋。橋の下には中荒井の波船場跡、上流にはスポーツ公園がある。

## 都賀町指定文化財一覧

平成18年1月1日現在

種類	件数	指定年月日	指定内容	住所・所在	種類	件数	指定年月日	指定内容	住所・所在
有形	2件	S57. 1.11	文挟流獅子舞の用具一式	上新田猿田彦神社	民俗文化財	158名	H11.10.15	文挟小流獅子舞保持者(6名)	保存会長(升塚愛宕神社)
		H17. 5. 3	文挟小流獅子舞の用具一式	升塚愛宕神社			H17. 5. 3	文挟小流獅子舞笛技術保持者(15名)	保存会長(升塚愛宕神社)
S44. 4.15	関白流獅子舞保持者(13名)	保存会長(木八幡宮)	S57.10.15	文挟流獅子舞保持者(7名)			保存会長(上新田猿田彦神社)		
S60.11.19	関白流獅子舞笛技術保持者(5名)	保存会長(木八幡宮)	H 3. 5.17	依田流鷺宮太々神楽保持者(13名)			保存会長(鷺宮神社)		
S60.11.19	関白流獅子舞保持者(3名)	保存会長(木八幡宮)	H 5.11.27	依田流鷺宮太々神楽保持者(2名)			保存会長(鷺宮神社)		
H17.11.28	関白流獅子舞保持者(1名)	保存会長(木八幡宮)	H14. 4. 1	依田流鷺宮太々神楽保持者(1名)			保存会長(鷺宮神社)		
S44. 4.15	小天狗流杖術保持者(12名)	保存会長(木八幡宮)	H15. 1.20	依田流鷺宮太々神楽保持者(2名)			保存会長(鷺宮神社)		
S54. 5.14	小天狗流杖術保持者(13名)	保存会長(木八幡宮)	H17. 4. 1	依田流鷺宮太々神楽保持者(3名)			保存会長(鷺宮神社)		
S55.12.16	小天狗流杖術保持者(1名)	保存会長(木八幡宮)	H17. 4. 1	鷺宮太々神楽巫女舞保持者(6名)			保存会長(鷺宮神社)		
S57.10.15	小天狗流杖術保持者(2名)	保存会長(木八幡宮)	S45. 3.24	升塚			升塚56 538㎡		
H 7. 6.11	小天狗流杖術保持者(2名)	保存会長(木八幡宮)	S45. 3.24	華嚴寺跡			木2396 1587㎡		
H17.11.28	小天狗流杖術保持者(8名)	保存会長(木八幡宮)	S57. 1.11	なんきんはぜ			家中小学校校庭		
S49.10. 1	文挟小流獅子舞保持者(21名)	保存会長(升塚愛宕神社)	S57. 1.11	しだれ桜			龍興寺境内		
S49.10. 1	文挟小流獅子舞笛技術保持者(4名)	保存会長(升塚愛宕神社)	H 4.11. 3	こうやまき			臼久保薬師堂境内		
H 4.11. 3	文挟小流獅子舞保持者(18名)	保存会長(升塚愛宕神社)	H 7. 8.24	ムクロジ			本郷住吉社境内		

※栃木県指定無形文化財 小天狗流杖術(H3.10.11認定)

認定者数は認定時の人数です



▲華嚴寺跡を中心としたつがの里  
花まつりは4月末～5月初旬

●面積 30.52km ●町域 東西9.68km 南北7.06km

交通案内  
 ◆東武日光線 家中駅下車(浅草から135分)  
 ◆東武宇都宮線 新栃木駅にて日光線乗り換え 家中駅下車  
 ◆北関東自動車道 都賀インター



# 文化財巡り

## 赤津地区東部コース

原宿・桜内・木の東・木の北  
自久保・大橋・富張



▲双体道祖神①

▼長福寺④



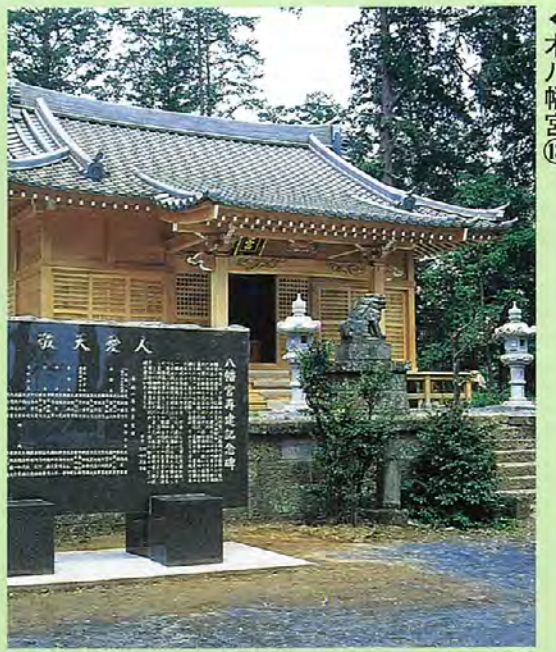
◀玉塔院⑦



◀三の宮神社②



◀原宿磐根神社⑥



◀木八幡宮⑩

◀木杖術⑬  
県指定無形文化財 東照宮大改築の祭に、地固めの儀式として行なわれたものといわれ木の八幡宮秋の例祭には獅子舞（関白流）と共に奉納されます。



◀木獅子舞⑭  
町指定無形文化財 木獅子舞は、元禄時代から華厳寺で行なわれたの言い伝えのあることから、県下でもかなり古俗を残すものです。



▲大橋の曾我兄弟の墓⑫

① 富張双体道祖神・馬頭観音堂

西方町より大柿に至る村境の旧道越路坂に双体道祖神が立っている。町唯一の双体道祖神である。その山道を登ると馬頭観音堂があり下野観音霊場三番札所の額と俳句の偏額が掲げられている。参道は高速道路で分断されているがもと鉄砲馬場があった。馬頭観音石碑は安政六年（一八五九）とある。ここは五世紀頃の住居があった遺跡である。

② 富張三の宮神社・神楽岡

後冷泉天皇の天喜五年（一〇五七）源義家が祀ったとされている。寛文年間（一六六一〜七二）領主武蔵国岩槻藩主阿部伊予守寄進の花崗岩の大鳥居があり、綱吉⑤時代の宝永四年（一七〇七）正一位を授けられている。神楽岡は神社後方にある。義家がこの地に至り、遠見張りをおいたので「富張」神楽を奏したので、この岡を「神楽岡」と呼ぶようになったと伝えられている。

③ 富張勝善神

三宮神社を西に向かい赤津川を渡った野辺にある馬の守り神

④ 富張長福寺・薬師堂

ズイアン地蔵・大橋源三郎の墓

花園天皇の正和元年（一三一二）安雪和尚の開山。慶長九年西方城主能登守重信が中興開基、境内に墓所がある。薬師堂は応仁元年（一四六七）宗寛和尚が建てたもの。板東三一番札所である。ズイアン地蔵は最近移転されたもの、伝承によれば義家の侍医ズイアンが此の地で死亡したので葬り地蔵を建てたといわれている。大橋源三郎は明治の自由民権運動の志士・明治十九年九月加波山事件に連座して獄死する。時に二九歳であった。長福寺の入口に碑がある。（曹洞宗）

⑤ 桜内不動尊

不動尊は原宿一〇二九番地、横倉一男氏宅の裏にある。もと原宿と西方の村境に道路をはさみ西側に地蔵様、東側に十九夜塔・庚申塔・青面金剛童子・男根の石柱があったが現在は不動尊境内に移されている。村境にあるのは塞の神で悪霊が侵入してくるのを防ぐ神である。十九夜塔以外は塞の神の機能を持つものとして祀られたもの。

⑥ 原宿磐根神社

祭神は磐裂命・経津主命・根裂命。明治の神仏分離までは正一位星宮大権現として崇拝されていた。

⑦ 原宿玉塔院・経石

真言宗豊山派、皆川城内持明院の末寺。皆川氏の一族吹上城主藤付信濃守の子九郎左衛門が天正十六年（一五八八）吹上村に創建し、慶長一七年（一六一一）にこの地に移した。この境内の近くから室町時代の経石がでてくる。

⑧ 木の高龍神社

木の四六七番地、主祭神は高龍神。文政年間（一八一八〜二九）社殿改造・石灯籠は天保十五年（一八四四）之建とある。天保十五年は弘化元年

⑨ 木の北大師堂跡

華厳寺堂塔の中で町内に残る唯一のお堂。明治二年移築された。下野観音霊場二番札所・都賀郡観音霊場三〇番札所。大正初期まで「大師様の坪廻り」の行事があった。平成十二年つがの里に移築。

⑩ 木の愛宕神社・前方後円墳

町唯一の前方後円墳、五世紀後半頃の築造。円筒埴輪・石製勾玉・古刀が出土した。頂上に火防せの神愛宕神社が祀られている。

⑪ 大橋八幡宮

大橋五八九番地。下野国誌に綾津日八幡とあり、祭神は大綾津日神。相殿に八幡宮を祀る。陽成天皇の元慶三年（八七九）従五位下を授けられている。大綾津日神は大橋津日神の別名。八幡は前九年の役（永承六年〜一〇五一）に源頼義が陸奥下向の折り勧請し相殿に八幡宮を祀ったもの。承徳元年（一〇九七）洪水により流失・永正年中（一五〇四〜二〇）野火のため焼失・永禄元年（一五五八）再宮・同年十一月十五日神霊を移す。

⑫ 大橋の曾我兄弟の墓

建久四年（一一九三）源頼朝が富士の裾野に巻狩を行なったとき、曾我祐成・時政兄弟が父の仇工藤祐経を討ったことは知られている。その、曾我兄弟の墓と像が大橋の墓地にある。場所は自久保公民館を北上した東北自動車道沿いにある。

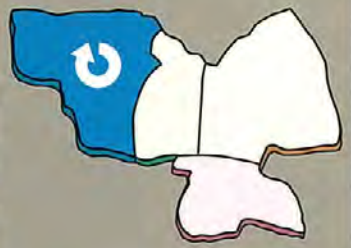
⑬ 木の八幡宮・杖術・獅子舞

木一六〇八番地。白鳳四年（六七六）宇佐八幡宮より宇小馬場に勧請し、延暦八年頃（七八九）現在地に移す。主祭神は菅田別命。祭礼には町指定文化財の獅子舞・県指定文化財の杖術が奉納される。平成三年不審火により焼失同八年再建した。

# 文化財巡り

## 赤津地区西部コース

木の西・臼久保・深沢・南嶺・十文字  
仲坪・宿坪・中郷・野上



▲華嚴寺観音堂跡②



▲臼久保薬師堂・高野楨③



▲龍興寺しだれ桜⑬

▼龍興寺⑬



▲大柿薬師堂⑭



▲大柿星の宮神社⑯



▲白山神社⑰



⑨南嶺不動明王



▲生出神社⑧



▲深沢建徳寺④

### ① 木村城主館跡・鹿島神社

寿永二年（一一八三）の志田義広の乱に鎌倉方についた戸矢子有綱は藤姓足利領を継承し五男信綱に木村保をあたえた。信綱は木村を名乗り館をつくる。その館跡が大橋氏（木二〇二番地）の屋敷その他となっている。館の西方には鹿島神社を勧請し守護神とした。屋敷の一角に木村大権現の石祠があり、大橋家で護っている。

### ② 華嚴寺跡・観音堂跡

勝道上人が延暦元年日光登頂に成功した後の延暦八年（七八九）開山、金堂・僧房・観音堂が立ち並び壮観であったと伝えられている。観音堂跡に十九個の礎石・井戸の跡・念仏供養の碑がある。明治元年の廃仏毀釈令により廃寺となり同五年火災のため焼失した。旧墓地には華嚴寺の僧の位牌堂と無方塔などがある。

### ③ 臼久保薬師堂・高野楨・御霊神社

華嚴寺の地続きに薬師堂があり薬師の守護神十二神将が祀られている。境内に町指定天然記念物の高野楨がある。御霊神社は奈良時代以降、慣りを含んで横死したものが霊となつて崇りをなすものの特に御霊と呼んだ。十世紀後半華嚴寺の学僧が村人に勧め祀つたものであるが、村人は明神や天神と呼び作神として崇めた。

### ④ 深沢建徳寺

曹洞宗のお寺。元龜元年（一五七〇）皆川俊宗開基、天嶺香補開山。俊宗が深沢城を再興した成勝の菩提を弔うため建立。

### ⑤ 深沢市兵衛薬師

作者は善道、都賀三十三ヶ所三番薬師霊場

### ⑥ 深沢城（布袋ヶ岡城）跡

標高一八〇m・東西二七〇m・南北四〇〇mの山城（要害山）藤原秀郷の築城。永正十六年（一五一九）皆川成勝が再興し城代をおいて守備した。深沢合田口は大手、吉原方面は搦手。天正十六年（一五八八）宇都宮国綱と皆川広照との戦いで落城

### ⑦ 深沢かわらけ山

天平十三年（七四一）聖武天皇は諸国に国分寺・国分尼寺建立の詔を出す。その当時の瓦を焼いた窯跡、いまでも瓦片が出土する。

### ⑧ 深沢生出神社

深沢一九九番地、主祭神は大名持命。湧水地に祭祀された水神様。今も境内のオミタラセの水は絶えることがなく、富張・木村地区の用水として利用されている。

### ⑨ 南嶺不動明王

大柿一八六四番地、土屋氏宅前にある。大日如来が悪魔を降伏させるため憤怒の相をして出現したもので、菩提心を求める際の障害を砕く明王とされる。

### ⑩ 南嶺赤石遺跡

大柿南嶺集落西方、県道栃木栗野線を越えたところの低い山地が水田をはさむ地にある複合遺跡。昭和四五年駒沢大倉田芳郎教授により発掘され、土器・石器が出土した。

### ⑪ 大柿白山神社

神護景雲年間（七六七〜七六九）加賀白山より勧請。主祭神は伊佐奈岐・伊佐奈美命永仁五年（一一九七）再建・文明元年（一四六九）修繕・寛文年間拝殿改修

### ⑫ 花の江郷焼餅地蔵

建立は綱吉⑤時代の貞亨二年（一六八五）

### ⑬ 大柿龍興寺・しだれ桜

暦応三年（一三三三）稲葉入道開基。仏敎禪師開山、加賀白山権現を勧請したので大白山と号する。天正年間（一五七三〜九一）播磨禪師が当寺を中興、天願持礼・紫衣勅許の寺格にすすみ、天正一九年（一五九一）徳川家康より朱印地十石と錦の袈裟・数珠等を贈られた。その後の将軍も厚く遇している。しだれ桜は町指定天然記念物（臨濟宗）

### ⑭ 大柿薬師堂

平成五年堂は、解体新築した。解体した彫刻に天保九年（二八三三）の銘があり、願主は石川亀之助・玉田仁右衛門・大森清兵衛門、大工は越後三島郡・伊藤寅吉、彫刻師は磯部儀右衛門々人腰塚佐市良とある。

### ⑮ 大柿明宝院不動明王

大柿一〇六八番地・芳野新一氏宅の一間に祀られている赤不動。昔は三体の不動明王が別棟に祭られ、明宝院と称し信仰を集めた。吉宗⑥時代の享保八年（一七二三）当主・秀教が京都の醍醐寺より、権大僧正に補された古文書がある。

### ⑯ 大柿星の宮神社

中郷の守護神、祭神香々香男命

### ⑰ 大柿琴平神社

旧村社・祭神は大物主命。文化年中（一八〇四〜一七）小字野上の守護神として弥次山に奉祭した。奥宮は文政二年（二八一九）建立する。